

2010年7月1日

報道関係各位

香港貿易發展局  
**医食同源「フードエキスポ2010年」開催**  
ジャパンパビリオンを設置ー日本からは過去最大100社・団体が出展

香港貿易發展局は「フードエキスポ2010」を2010年8月12日から16日まで、香港コンベンション&エキシビジョン・センター (HKCEC) にて開催します。日本からは、過去最大100社・団体が「トレード・ホール」に出展する予定になっており、日本食品・農林水産物が香港・中国市場に向けて、発信されます。(詳細別紙参照)

「フードエキスポ2010」は全体で、昨年出展者実績607社・団体から、約90増の700社・団体が20の国と地域から参加を予定しています。日本は、北海道、青森、栃木、静岡、兵庫、福岡、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄各地の自治体・支援団体の他、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社、JETRO、商社などの傘下で参加する企業・生産者を含め、昨年より69社・団体増の、過去最大かつ海外（中国本土を除く）出展としても最大の100社・団体が「トレード・ホール」内のジャパン・パビリオンに参画し、米、麺類、畜産、水産、乳製品、調味料、野菜、果物、飲料、菓子類、酒類など多岐に亘る日本食・農林水産物のプロモーションを行います。

また今年も、ジャパン・パビリオン後援・支援として、在香港日本国総領事館主催による「香港発！幸福の日本の食キャンペーン」が展開されますが、会期中同キャンペーンの親善大使としてミス日本グランプリが来場、世界からの来場者に向け日本食をキャンペーンする予定です。

「フードエキスポ2010」はバイヤーなど業界関係者のみが入場できる「トレード・ホール」と一般来場者を対象とした「パブリック・ホール」の2つのエリアに分かれています。「パブリック・ホール」へは、合計7社の日本企業（香港現地法人を含む）・輸入商社が出展しますが、中でも例年人気の日清食品は、新設の「ヌードル&パスタ・ゾーン」へ最大級のブースを出展します。この「パブリック・ホール」への昨年の来場者数が香港人口の5%に相当する35万人超であったことから、本展示会の人気の高さがお分かりいただけます。

香港は過去3年、日本の農林水産物の最大輸出先となっており、2009年度の香港向けの総輸出高は991億円に上り、日本農林水産物等の総輸出額の22%に相当します。また、香港貿易發展局リサーチ部門の統計資料によると、2010年1月から5月までの5ヶ月間の香港の日本からの食品・飲料品の輸入額は、3.7億米ドルで、前年同期比の42%増となっています。こうしたデータが示すとおり、香港における日本食品・農林水産物は着実に大きな市場を形成しており、輸入重要も増加傾向にありますので、今回の展示会参加者に対しても、こうした市場背景が後押しし、更

なる輸出及び販路拡大が期待されます。

また、香港には年間 1,800 万人（2009 年実績）もの中国本土からの旅行者が訪問しています。こうした旅行者の影響は大きく、香港で高い認知を得た食品は比較的早い速度で中国本土でも市場機会を得ることができることから、香港を中国本土へのショーウインドーとして利用し、さらに中国市場へ販路を拡大することにも繋がります。

「フード・エキスポ 2010」と同時期、同会場で開催の「香港インターナショナル・ティー・フェア」は今年で 2 回目を迎えます。（詳細別紙参照） 本年は全体で前年対比 25%増の 330 社・団体が出展、日本からは 7 社・団体が参加する予定です。中国茶・紅茶に加え、茶葉の主要生産国のインド、スリランカ、タンザニアなど茶団体の協力を得て開催される「香港インターナショナル・ティー・フェア」を通じて、香港は茶貿易のハブとなることをめざしています。

医食同源のその他の展示会としては、「漢方博覧会（現代漢方&ヘルスケア製品展・国際会議）」が同時期、同会場で開催されます。（別紙参照）

また今年で 3 回目を迎え、着実に世界の主要ワイン・イベントの一つとなっている「香港インターナショナル・ワイン&スピリッツ・フェア」は 11 月 4 日から 6 日の間 HKCEC にて開催されます。昨年は 62 の国と地域から 12,000 人の来場者と 34 の国と地域から 525 の出展者があり、本年はそれを上回る 700 の出展者が予想されています。展示会期間中に行われる「香港インターナショナル・ワイン&スピリッツ・コンテスト（HKIWSC）」には、本年度「ベストワイン・ウイズ・さしみ」のコンテストが、新設される予定になっており、このようなことから香港における日本食ブームの一端が窺えます。

日本は、香港にとっての第 3 番目の貿易相手国ですが、香港と日本の間の総取引額は、2010 年 1 月から 5 月までの 5 ヶ月で、39%増となっており、金額ベースでは 214 億米ドル（1 兆 9000 億円相当）増加しています。香港は、アジアの中心に位置し、理想的な国際貿易センターです。自由な貿易政策と、世界に通用する情報基盤を駆使し、16 年連続で世界の最も自由な経済としてランキング 1 位を獲得しています。日本と香港の間の貿易は、今後も拡大して行くものと予想されます。

香港貿易発展局（HKTD）は、香港に拠点を持つ企業及び香港企業と取引をする外国企業の国際的相互マーケティングを目的とし、1966 年に準政府機関として設立されました。中国本土の 11 事務所を含む、全世界主要都市にある 40 以上の事務所を通じて、中国やアジアでのビジネスの拠点としての香港の利用を支援しています。また、業界刊行物や調査報告書、オンラインを通じた情報提供のほかに、各種展示会・セミナーを開催、ミッションの派遣を行い、香港や中国本土におけるビジネスチャンスを提供しています。

<本件に関するお問い合わせは下記まで>

香港貿易発展局 東京事務所 マーケティング部 担当 伊東 Tel: 03-5210-5850 Fax:03-5210-5860

大阪事務所 マーケティング部 担当 田中 Tel: 06-4705-7030 Fax: 06-4705-7015

<本件に関する報道関係のお問い合わせは下記まで>

香港貿易発展局 コーポレート・コミュニケーション 担当 山本 Tel: 03-5210-5866 Fax:03-5210-5860